

F-3 理論食料費試算と其の展開(第6報) — 実態食料費変容の分析 —  
佐賀大教育 出石康子

目的 本理論食料費試算は、食料費計画に役立つ標準的食料費の算出に止まらず、実態食料費運用のあり方と批判・検討する場合の基準となり、その改善に直接働きかけるものにしたと考えているので、この面での展開に力を入れた。今回は試算の理論と結果を利用して、実態食料費変容にあずかった因子を①食糧構成②物価③栄養摂取量に絞り、それぞれ数量化して、実態食料費検討に、機能による新しい視座を拓こうとした。

方法 比較する各実態食料費の間に1つの基準を定め、正規の理論食料費と別に、この基準とした実態食料費の食品の価格も、各実態食料費の価格と仮定する場合の理論食料費も試算した。この一定価格による理論食料費間の差が、食糧構成差による変容分にあたる。ゆえに正規の理論食料費間の差からこの分をひけば、物価差による変容分が得られる。実態食料費の変容量への換算には、理論食料費に対する実態食料費の比率を併用した。栄養充足率の差による実態食料費変容分は、実態食料費による成分別充足率差を成分別平均単価を用いて、成分毎に直接金額化し、これらと合計して変容量とした。

結果 従来食糧構成に因る食料費変容の確かなのは、消費者物価食料指数を利用するのが普通であったが、指数作成のための食糧構成と食生活の実態は当然異っており、物価指数による補正は、実態の変容を誤解させるおそれがあった。今回試みた方法は、理論的にもより合理的であり、両変容の実態に近いものが把握できる。また栄養充足率の差を金額化することにより、従来の栄養無視に近かった実態食料費の検討に、栄養摂取からみた評価を可能にし、評価の結果を適切な改善策の選定につなぐことができるようになった。